集落協定の連携、広域化

【福岡県嘉麻市泉河内中山間地事業組合】

高性能農業機械の導入と、協定統合による組織強化で、地域農業を守る

○高性能農業機械を導入し、農作業の負担を軽減
○集落協定の統合を進め、それぞれの協定の強みを活かした広域協定を締結

集落の課題

高齢化と担い手不足

・集落内の高齢化率は68%を上回り、離農者が次々現れ、担い手不足が加速。
・遊休農地化を防ぐため、農地保全の省力化が必要。

取組内容

高性能農業機械の導入

・県補助金や共同活動費を活用し、田植機、トラクターや農業用ドローンを導入
・水稲栽培に係る農作業を受託

近隣集落協定との統合

・組織間で話し合いを重ね、令和２年度に中山間才田地区集落協定、令和３年度に西野中山間集落協定と統合

取組の成果

労力の省力化とコスト低減を実現

・協定が高性能農業機械を複数台所有したことで、作業受託面積が増えるとともに、作業が効率化
・一括購入する農薬量が増え、大口取引による割引が受けられるようになり、生産コストが大幅減

【ドローンによる防除】

人材確保により組織を強化

・協定内に若手農業者が増え、機械のオペレーターが増加
・地域ごとに役員となる人材を確保し、組織体制が強化

取組地域の概要

○位置

○地域の概要
・嘉麻市の南西に位置し、泉河内川、高畑川流域に広がる地帯で、水稲栽培が主体。
○主要作物
・水稲、野菜、花卉

○集落協定の概要(R3現在)
面　積：133ha(田)
交付金額：3,620万円
・個人配分70%
・共同取組活動30%
構成員：119人
協定開始：平成12年度

1　集落の概要

――集落の特徴を教えてください。

泉河内中山間地事業組合は、旧千手村内の５集落を活動範囲とする集落協定です。市の南西に位置しており、市役所本庁舎から車で約30分と、アクセスはあまりよくありません。ですが、山から流れてくるきれいな清流と昼夜の大きな寒暖差のおかげで美味しいお米が育ちます。そのため、農家のほとんどが水稲を作付けています。

2 集落の抱える課題

集落内での高齢化、今後の活動についての深刻な問題

――集落にはどんな困りごとがありましたか？
集落協定参加者の68%が65歳以上と、高齢化が深刻化していました。協定内に若手と言える人材は少数でした。
近い将来、農業が続けられず遊休化する農地が増えるだろう、保全活動の継続も難しくなる、といった不安が話題にあがっていました。

――その要因としては何が原因と思いますか？
一概には言えませんが、市内の他集落でも高齢化が進んでおり、後継者不足が問題となっています。
市外へ進学した若者が戻ってこないのが一因だと思います。

3 取組の経緯

まず自分達ができる事を考えてみよう

――取組を開始したきっかけは何ですか？
まず組織内の代表や役員の中で、今後どのような活動を続けていけばいいか話し合いをしました。
当時は、農業機械等も少なく作業自体が重労働になっていることが主な課題としてあげられました。
そのため、まず機械の導入により作業を省力化する事に重点を置いて、組織内の総会で改めて話し合いました。そこで、全体の意見が一致できたことがきっかけです。さらに、機械を操縦する人材や組織を取りまとめる主導的な役割を担う人材も必要であるとの結論に至り近隣の組織と統合することに決定しました。

4 取組の内容

組織内に農業機械を導入、他の協定との連携による広域化

――取組の初期はどのようなことを行いましたか？
市の農林振興課に集落内の現況を伝え、中山間で活用できる補助金はないか？と相談したところ活用できそうな補助金があるので、活用してみてはどうかとの提案を受けました。
令和２年には、作付面積を増やすために県の補助金（スマート農業推進強化事業）でトラクターとロータリー、田植機４台を導入しています。組織内ではほとんどが水稲を作付けしているため購入したものです。
その後、さらにドローンを導入しました。農薬散布は、人力で行うよりも作業の効率化・省力化ができています。

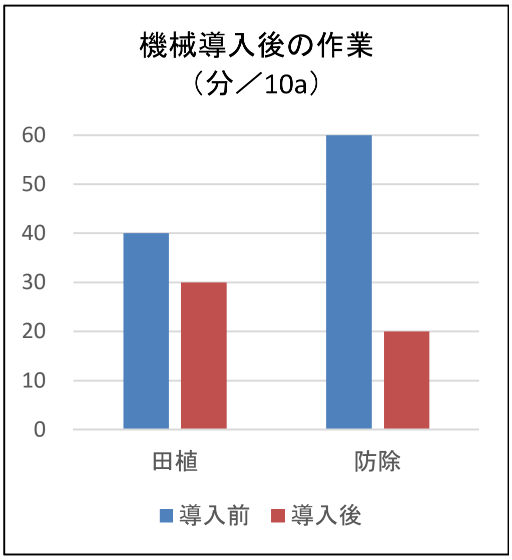
同じ問題を抱えているその他の組織との統合

――統合を後押ししたものは何ですか？
他の組織も同じ状況ではないのではないかと思いました。そこで他の組織と活動の内容や問題点等を話し合ってみようと思い、役員同士で話を聞きお互いの強みを統合することでうまく活かしていこうという話になりました。嘉穂才田には、若手人材がいるが依然高齢化が進んでいる。当組織は若手人材は少ないが共同で利用できる機械を導入している。一緒に活動すればお互いにメリットがあると思いました。

5　取組の成果

様々な機械を導入し、作業の省力化を実現

――具体的にどんな成果がありましたか？
　田植機導入前、10ａ当たり40分かかっていた作業が導入後、30分となり約25％の時間が削減できました。
　また、農薬散布用のドローンについて導入前は、背負式散布機を使って10ａ当たり60分を要した作業が導入後、20分となり約67％の時間を削減することができました。



他の組織と統合することで、組織の強化と若手の人材確保

――活動の実施体制はどのように変化しましたか？
　令和２年度には嘉穂才田集落と統合し、これまで役員として活躍していた人材や若手の人材を確保でき、活動の幅が増えました。高齢化が進んでいる組織同士で統合してもさらに農地の管理が大変になるのではないかと当初は心配の声もありましたが、高齢の参加者がお互いに手を取り合いながら作業を行うことで、コミュニケーションが増え、組織内での活動のやりがいにつながり、笑顔が増えてきました。また、若手人材を確保ができたことは大きく、共同機械のオペレーター制を導入し、重労働だった機械の整備等に係る作業を若手が積極的に担ってくれるため、短時間で整備が済むなど作業効率が上がりました。管理する農地は増えたものの、参加者一人ひとりの負担は軽減され各自の農地を保全する時間がしっかり確保でき、組織の強化に繋がりました。

６　人材、資源、制度の活用方法、工夫

組織統合を進め、加算金を活用しながら機械を購入、組織内強化へ

――中山間支払はどのように活用しましたか？
　作業効率向上のため多くの農業用機械を導入しました。そのうちドローンについては、操縦するための免許が必要になります。組織内の参加者４名に免許取得をさせました。主に水稲を耕作してるため防除作業にかかる費用が多く発生していました。ドローン導入前は、JAに防除作業を委託していて約150万円程費用が発生していましたが、導入後は委託費が削減され、農薬だけのコストになりました。その農薬も大量購入をする事が可能となったことで、50万円程のコスト削減につながりました。

７　苦労した点、克服方法

協定参加者一丸となって活動

――取組を進める上で特にどんな事に苦労しましたか？
　現在、嘉麻市における高齢化は深刻化しています。その中で農地の保全や農作業等の活動は参加者にとって重労働であると思います。しかし、参加者が全員で活動し農地を守っていきたいという気持ちを持っているため、一丸となって取組まないといけません。全員で話し合いをしたり意見を聞き、取りまとめ、どういった形で負担を減らす体制を作るかを考え、意思統一を図ることに一番苦労したと思います。

――その苦労を克服するためにどんなことに心がけましたか？
　活動に今後も参加できるか不安を感じていた人達もたくさんいたと思います。まずは楽しく活動できる環境や一人ひとりの意見が聞けるような体制を作ることが求められていたと思います。その中で自分達が積極的に楽しく活動をしていくことを心掛けました。そうするときつい作業でも少しは楽しくなっていくと思いました。またそれを続けていきながら活用できる補助金等を探し、組織内での活動負担を少しでも減らせるように考えたことだと思います。
　そうする事で、少しずつ成果をあげ活動の幅を広げ組織内の笑顔も増えてきて今後も継続して頑張っていこうと思える体制を作れたと思います。

８ 集落の今後、他の地域に伝えたいこと

高齢化が進んでいる社会で農地保全の大切さ

――今後、組織はどんなことを目指すのですか？

現代社会では環境・自然・農地保全等様々な問題があるなか、人と環境問題は切っても切れない問題だと思っています。その中で、今ある農地等の保全はとても重要で、中山間直接支払の交付金を活用しながらどのように活動していくかが重要だと思います。

現在、組織内では高齢化が進行しています。今後も永続的に農地を守っていくために、現在の参加者の経験や知識等はもちろん、楽しくみんなで取組みながら笑顔が絶えない組織作りを目指しています。

今後、若手農業者の担い手を確保し、活動の継続、組織強化につなげていきたいと思います。